

稲作生産情報第4号（要約）

令和7年6月25日
青森県「農林水産力」強化本部

- 天候や生育に応じたきめ細かな水管理で茎数確保に努めよう！
- 有効茎数を確保したほ場では中干しを実施しよう！
- カメムシ被害を防ぐため、地域ぐるみの草刈りをしっかり行おう！

〈生育状況〉

6月20日現在の生育は、草丈・㎡当たり茎数は平年並、葉数は平年をやや上回っている。

水田の土壌還元による「わき（ガス）」が発生したほ場や、田植えが遅かったほ場では、茎数が少なめとなっている。

〈水管理〉

- 1 温暖な日は3cm程度の浅水にして水温と地温の上昇を図り、気温の低い日は5～6cmのやや深水で保温し、茎数の早期確保に努める。
- 2 「日中止水、夜間かんがい（夕方又は早朝に入水）」の基本を守り、水温の上昇を図る。
- 3 水田の土壌還元による「わき（ガス）」が発生し、生育不良となっている場合は、3～5日程度の落水管理を行う。
- 4 中干しは、1株当たり20本程度の茎数を確保した水田では、天候の良い日を選んで行い、生育遅れの水田や低温が続く場合には行わない。

〈病虫害防除〉

- 1 斑点米カメムシ類の生息密度を低下させるため、7月中旬までに水田周辺の雑草地などの草刈りを地域ぐるみで行う。また、畦畔（けいはん）の草刈りについては、水稻の出穂7日前までに終える。
- 2 補植用の苗を畦畔や水田内に放置すると、葉いもちの発生源となるので速やかに処分する。

報道機関用提供資料	
担当課 担当者	農林水産部農産園芸課 稲作・畑作振興グループ 総括主幹 八島 敏行
電話番号	直通 017-734-9480 内線 5073
報道監	農林水産部 次長 栗林 豊 内線 4967